

TAC 制度下における漁業資源評価と資源管理に関する研究

(資源評価調査・日本周辺高度回遊性魚類資源調査・資源回復計画作成推進事業)

道根 淳・安木 茂・沖野 晃・村山達朗

1. 研究目的

水産研究所および関係各県の水産研究機関と協力して、日本周辺水域内の漁業資源に対して各種調査を実施し、資源の適切な利用を図るための科学的評価を行う。

2. 研究方法

漁獲成績報告書および漁業種類別魚種別銘柄別漁獲統計資料の収集・整理ならびに主要 8 漁協における市場調査と生物精密測定結果をもとに、主要魚種に関する生物統計を作成する。また、海洋観測、卵稚仔調査、魚群分布調査等の試験船調査を実施し、魚群分布、環境変動、産卵・加入状況などを明らかにする。さらに、標本船調査により主要漁業の操業実態の把握を行う。

3. 研究結果

結果の概要は次に示すとおりで、これらは国が定める特定海洋生物資源(マアジ・マイワシ・マサバ・ズワイガニ・スルメイカ)の TAC 量及びその他の主要魚種に関する ABC 算定の基礎資料として利用された。調査結果の詳細は別添資料に示した。

(1) 漁場別漁獲状況調査

中型まき網漁業および小型底びき網漁業について、80ヶ統の漁獲成績報告書の収集・整理を行った。また、ずわいがにかご漁業の漁獲成績報告書の整理も行った。

(2) 生物情報収集調査

主要32魚種(マアジ・マサバ・マイワシ・ウルメイワシ・カタクチイワシ・ブリ・マグロ類・マダイ・キダイ・ヒラメ・ソウハチ・ムシガレイ・アカガレイ・トラフグ・タチウオ・カワハギ・ハタハタ・ニギス・スルメイカ・ケンサキイカ・ヤリイカ・ズワイガニ・ベニズワイガニなど)について漁獲統計資料の整備を行った。また、そのうち14魚種(マアジ・マサバ・マイワシ・ウルメイワシ・カタクチイワシ・ブリ・クロマグロ・マダイ・キダイ・ヒラメ・ソウハチ・ムシガレイ・アカガレイ・スルメイカ)については生物測定調査を実施し、生物情報データベースを作成した。

(3) 試験船調査

定線海洋観測を4、5、6、9、12、3月に実施し、水温・塩分・流れ、卵稚仔の分布状況、計量魚探による魚群分布量などの漁況海況に関する資料の収集を行った。

(4) 標本船調査

中型まき網漁業(4ヶ統)と定置網漁業(2ヶ統)の標本船を選定し、操業記録および銘柄別統計の記録を依頼し、結果を整理した。

(5) 魚種別系群別資源評価

上記の各調査で得た基礎資料を基に日本海区・西海区水産研究所が中心となって行う資源解析と資源評価に、関係府県水産試験場と共同で魚種ごとの研究チームを編成し参加し21魚種について資源評価を行った。